

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
保育者論 (Nursery Teachers)		赤嶺 優子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて理解をする。
- 関心意欲：保育者の専門職的成長について関心や意欲を示し、自己の成長に繋げる。
- 思考判断：保育者の専門性について考察し、理解する。
- 態度：保育者の協働について理解する。

授業の概要

保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて理解をする。保育の知識を深め、保育者の役割、専門性、保育をすることの意義について学び、資質・能力について理解を深める。また、保育・教育問題を把握し現状と課題を認識する。保育者の協働、保育者の専門職的成長について理解を深める。

- 予習：保育者の専門性や資質・能力等について、また、家庭や地域社会の保育・教育課題の事前学習を課す。
- 復習：復習を通して、講義内容の理解を深めること。

授 業 計 画

第1回： 保育者になるということ	第9回： 保育者の協働① (保育・教育問題)
第2回： 保育者の役割と倫理	第10回： 保育者の協働② (専門職間及び専門機関との連携)
第3回： 保育者の制度的位置づけ	第11回： 保育者の協働③ (保育者及び地域社会との協働)
第4回： 保育者の専門性① (養護と教育)	第12回： 保育者の専門職的成長① (資質・能力)
第5回： 保育者の専門性② (知識・技能及び判断)	第13回： 保育者の専門職的成長② (専門性の発達)
第6回： 保育の省察	第14回： 保育者の役割と専門性(協同研究) ①
第7回： 特別講義	第15回： 保育者の役割と専門性(協同研究) ②
第8回： 保育課程・教育課程による保育 の展開と自己評価	第16回： 定期試験

テキスト： 矢藤誠慈朗・天野珠路『保育者論』中央法規

参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008年
全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』

評価方法・評価基準：試験・課題・授業内レポート・協同研究内容及び発表等を総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○	○				60
課題 授業内レポート		○	○	○				30
授業態度								
協同研究内容及び発表		○	○	○				10
演 習								
その他								

履修上の注意：特別講義は、日程の変更もあり得る。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育原理 (Principles of Education)		喜舎場勤子・糸洲理子

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：教育の意義や制度そして実践に関する基礎理論について理解する。また、児童福祉との関わりや生涯学習社会の現状と課題についても理解する。

思考判断：使命感や倫理観を育む。批判的思考力や判断力を養う。

関心意欲：教育に関する時事問題に興味を持つ。社会システムの中の学校教育のあり方に関心を持つ。

態度：豊かな教育実践を支える基礎的な力を培うと共に、保育者としての人間性を育む。

授業の概要

教育原理は、幼稚園教諭免許状・保育士資格にかかる講義のため、「保育」も広義の「教育」形態という前提で計画が構成されている。教育の意義や制度を含む、実践に必要な基礎理論について学ぶ。具体的には、教育が社会の中でどのように誕生し営まれてきたのか、歴史的・思想的変遷を通してそのしくみを理解する。また、教育等の関連法規や現行の教育制度・運営・経営的事項についても触れる。

予習：シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない言葉は調べておく。

復習：授業で学んだ箇所の要点を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。

授 業 計 画

第 1 回： 教育とは	第 9 回： 教育実践の基礎理論
第 2 回： 教育の定義と意義・目的	第 10 回： 教育実践の多様な取り組み
第 3 回： 教育と児童福祉	第 11 回： 学校を取り巻く課題
第 4 回： 諸外国の教育思想と子ども観	第 12 回： 課題発表①
第 5 回： 日本の教育思想と子ども観	第 13 回： 課題発表②
第 6 回： 教育制度	第 14 回： 生涯学習社会の概念
第 7 回： 教育法規・教育行政	第 15 回： 諸外国の教育制度
第 8 回： 学校教育・教員に関する制度	第 16 回： 定期試験

テキスト： 保育士養成講座編纂委員会『教育原理』全国社会福祉協議会 2013

参考書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』、必要に応じてプリント対応

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○	○	○				30
演習							
その他							

履修上の注意： 講義形式の授業ですが、双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会をもうける。提出物は期限厳守。 レポートについては初回講義時に説明予定。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
発達心理学 I (Developmental Psychology I)		大城りえ

授業の到達目標及びテーマ

子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。さらに、初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。

授業の概要

乳幼児の発達の特徴を学び、保育者に求められるかかわりを理解する。さらに、障がいのある子どもたちの発達を理解し、支援の方法を学ぶ。

予習：テキストの該当箇所を事前に読むこと

復習：講義で学んだ箇所を読み、講義内容の理解に努めること

授 業 計 画

第1回：	オリエンテーション、 発達心理学を学ぶ意義
第2回：	生涯発達と発達援助
第3回：	胎児期の発達
第4回：	新生児期の発達
第5回：	乳幼児期：身体的機能と運動機能 の発達
第6回：	：知覚の発達
第7回：	：認知の発達
第8回：	：感情の発達と自我

第9回：	乳幼児期：ことばの発達と社会性
第10回：	：基本的信頼感の獲得
第11回：	：他者とのかかわり
第12回：	：社会的相互作用
第13回：	：遊びの発達
第14回：	障がいのある子どもたちの理解①
第15回：	障がいのある子どもたちの理解②
第16回：	期末試験

テキスト： 新保育士養成講座編纂委員会（編）新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学 全国社会福祉協議会
その他担当者が準備する。

参 考 書： 随時、紹介する。

評価方法・評価基準：期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、授業態度

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				35
授業態度			○	○			15
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
保育課程総論 (Curriculum for Child Care)		赤嶺 優子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：保育課程・教育課程の意義と役割を理解し、理論と実践の関係を深める。
 保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について理解する。
 関心意欲：保育内容と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
 思考判断：幼児の発達に応じた保育内容を勘案し、指導計画を作成する。
 態度：計画・実践・省察・評価・改善等の課程の全体構造を能動的に捉えた保育の在り方を理解する。

授業の概要

保育課程、教育課程、保育計画の意義及び編成の方法について知る。幼稚園や保育所（園）の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における指導計画（日案、部分案）の立案の仕方を身につける。
 予習：教材研究を踏まえ部分案が立案できるように、対象年齢、発達段階を踏まえて準備をしておくこと。
 復習：指導の計画と評価について、保育・教育課程、保育内容等を踏まえ、理論と実践の関係を深めること。

授業計画

第1回：オリエンテーション・保育の基本・他	第9回：保育の省察と記録
第2回：カリキュラムの基礎理論	第10回：保育の反省と自己評価
第3回：保育課程・教育課程と指導計画の意義	第11回：幼稚園教育の基本と教育課程の編成
第4回：保育所指針と幼稚園教育要領	第12回：指導計画の実際の展開と実践「部分案」①
第5回：指導計画と評価の意義	第13回：指導計画の実際の展開と実践「部分案」②
第6回：指導計画の作成と留意事項（ビデオ視聴：日案作成）	第14回：計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上
第7回：領域と保育内容、環境構成	第15回：保育の計画の再編成 保育要録と幼稚園幼児指導要録
第8回：指導計画の作成（ビデオ視聴：部分案作成）	第16回：定期試験

テキスト：

参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008年
 全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』

評価方法・評価基準：試験・課題・日案/部分案作成・指導計画の展開と実践発表等で総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
課題 日案・部分案作成	○	○	○	○	○		30
授業態度							
指導計画の展開と実践 発表	○	○			○		10

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育指導法ゼミ (Introduction to teaching methods in ECCE)		赤嶺優子・糸洲理子 松田恵子・山城いと子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：保育の目標、領域と保育内容について理解する。保育所保育指針の各章のつながりを読み取り保育の全体な構造を理解する。
- 思考判断：保育内容を視野に入れた教材を研究し、技能発表をする。
- 関心意欲：幼児の保育の特徴に関心を持ち、生活や遊びを通しての総合的に指導することに関心を持つ。
- 態度：保育所（園）の1日の流れを観察し、保育記録を作成する。

授業の概要

保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連付けて、保育内容と子どもの生活や遊びを通して総合的に指導することを学ぶ。また、保育課程・教育課程と指導計画との関連性を理解する。ビデオ視聴や保育所（園）見学を通して、保育所（園）、幼稚園の一日を把握し、保育内容や保育者の役割について学ぶ。

予習：保育の目標、領域と保育内容について理解を深め、保育内容を視野に入れた教材を研究し、技能発表内容の事前学習を課す。

復習：保育の目標・子どもの発達・保育内容を関連付けて保育の全体的構造の理解を深める。

授 業 計 画

第1回： 保育の基本と保育内容	第9回： 生活や発達の連続性に考慮した保育
第2回： 保育の目標、領域と保育内容	第10回： 家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育
第3回： 保育課程と教育課程 保育の全体的構造	第11回： 特別な支援を要する子どもの保育
第4回： 保育所（園）のVTR視聴 子どもの発達と保育内容	第12回： 保育者としての子どもとの関わり方
第5回： 個と集団の発達と保育内容	第13回： 保育記録の視点 (環境・保育の流れ・保育者の援助)
第6回： 養護と教育が一体的に展開する保育	第14回： 保育所（園）見学
第7回： 幼稚園のVTR視聴 環境を通して行う保育	第15回： 保育内容と子どものかかわり
第8回： 遊びにおける総合的な保育	第16回： 定期試験

テキスト： 監修：公益財団法人児童育成協会 編集：石川昭義・松川恵子『保育内容総論』中央法規

参考書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』

評価方法・評価基準：試験、小テスト、保育所（園）見学記録、保育技能計画作成、保育技能発表等で総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 保育所（園）見学記録・ 保育技能計画作成	○	○	○	○	○		20
保育技能発表	○	○	○	○	○		10
演習							
その他							

履修上の注意：保育技能発表は、3回目以降、3～4人ずつ行う。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
健康指導法 (Health Education Methodology)		宮城 圭子

授業の到達目標及びテーマ

保育内容としての「健康」について理論と実際を理解する。

授業の概要

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針「健康」のねらい・内容とその指導の基本を学習する。
2. 幼児期の身体発達や運動発達など特性を踏まえて、実際の子どもの活動の姿や指導のあり方について学習する。
3. 今日の課題である「基本的な生活習慣」、「食育」、「進んで戸外で遊ぶ」について家庭との連携のあり方などを学習する。

予習：テキストを事前によく読み、「子どもの健康」の知識を再確認しておくこと。

復習：授業の際に配布されたレジュメを読み、講義の内容をより理解し、応用できるように努める

授 業 計 画

第 1 回：	学習計画
第 2 回：	子どもと健康
第 3 回：	子どもの健康問題の時代推移と課題
第 4 回：	心身の健康に関する領域「健康」 (保育所保育指針・幼稚園教育要領)
第 5 回：	子どもの身体にかかわる発達
第 6 回：	運動遊びの意義について
第 7 回：	運動遊びの展開
第 8 回：	子どもの基本的な生活習慣の獲得過程

第 9 回：	基本的な生活習慣にかかわる指導の展開
第 10 回：	食育の展開
第 11 回：	安全習慣・安全管理の指導・展開 (1)
第 12 回：	安全習慣・安全管理の指導・展開 (2)
第 13 回：	幼児期の性教育・健康支援者としての保育者の役割
第 14 回：	健康保育の実践と評価の視点
第 15 回：	保護者啓発
第 16 回：	定期試験

* 都合により内容や順序を変更することがある。

テキスト： 新・保育内容シリーズ「健康」谷田貝公昭（監修） 一藝社

参 考 書： 特になし

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度				○			30
受講者の発表	○		○		○		10
演 習							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
人間関係指導法 (Teach.Meth.of Hu.Rel.of Children)		赤嶺優子・宇根明美

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：人とのかかわりに関する領域「人間関係」の目標やねらい内容について理解をする。
 関心意欲：子ども理解を深めながら、領域「人間関係」のねらいと内容について具体的に学ぶ。
 思考判断力：領域「人間関係」の内容と子どもの生活と遊びについて関連性を持たせて理解する。
 態度：保育の専門知識を深めていこうとする姿勢を持つ。

授業の概要

幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」の目標やねらい内容等を子どもの発達と生活や遊びと関連付けて保育の全体的な構造について理解を深める。また、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育が一体となっていることを理解する。子どもの発達を理解しながら、人とのかかわりを育てる保育や保育者の役割について学びを深める。

予習：目標とねらい、内容、内容の取扱い等は、保育所指針や幼稚園教育要領を用いて事前学習をすること。
 復習：授業終了後の学びや課題を明確にし、授業計画内容の理解を深めること。

授 業 計 画

第1回： 「人間関係」の意義・乳幼児期の発達と人間関係	第9回： ビデオ視聴「葛藤体験について」討議
第2回： 保育の基本と保育内容	第10回： 「人間関係」の内容の取り扱い ①
第3回： ビデオ視聴「人間関係のはじまり」	第11回： 「人間関係」の内容の取り扱い ②
第4回： 「人間関係」の目標とねらい	第12回： 規範意識の芽生え
第5回： 「人間関係」のねらいと内容 ①	第13回： 遊びのなかで育つ人とのかかわり
第6回： 「人間関係」のねらいと内容 ②	第14回： ・人とのかかわりを育てる保育 ・生きる力を育む保育
第7回： 「人間関係」のねらいと内容 ③	第15回： 人とのかかわりを育てる保育者の役割
第8回： 「人間関係」のねらいと内容 ④	第16回： 定期試験

テキスト： 森上史朗・小林紀子・田辺英則編『保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房

参考書： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』・全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』

評価方法・評価基準： 試験、課題・発表等で総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○			60
課題	○	○					30
授業態度							評価に加えず
受講者の発表	○		○				10
演習							評価に加えず

履修上の注意： 4回目以降、ねらいや内容等について予習した内容の発表を課す。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
環境指導法 (Nat. and So. Env. Edu. Meth.)		照屋 建太

授業の到達目標及びテーマ

保育における環境の意義について学ぶ。人との話し合いを通して他人の考え方を身につけ、理解する。数・量・形の指導方法についても考え、学習する。学生自身、自ら自然に親しむ。沖縄の自然についても学び、保育活動に取り入れる方法を自ら考える。

授業の概要

この講義では、保育内容領域の「環境」を中心にその意義・内容について学ぶ。また、周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。さらに、環境について意図的に考え、計画的に学ぶ。

予習：講義前に予告したテキスト部分を読み、理解しておく。

復習：講義の中で話した内容とテキストの理解をさらに深めること。

授業計画

第 1 回： 講義概要説明	第 9 回： 飼育動物のかかわりと保育・栽培植物のかかわりと保育
第 2 回： グループ学習①	第 10 回： DVD 学習
第 3 回： 幼児と環境のかかわり	第 11 回： 年間行事について
第 4 回： 保育の基本と領域「環境」の位置づけ・領域「環境」における指導の観点	第 12 回： ビオトープについて
第 5 回： 好奇心・探究心のはぐくみ	第 13 回： グループ学習②
第 6 回： 人的環境としての仲間・保育者とのかかわり	第 14 回： 自然とのかかわりと保育・地域社会とのかかわりと保育
第 7 回： 物的環境としての室内環境・物的環境としての屋外環境	第 15 回： 好奇心や探究心を持って、生活に取り入れ展開にする保育について
第 8 回： 子どもの安全環境・子どもと情報環境	

テキスト： 嶋崎博嗣ほか『保育士養成のための必須科目シリーズ保育内容（環境）』一藝社
 沖縄生物教育研究会編『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版
 その他、必要に応じてプリントを配る。

参考書： その他、必要に応じて紹介する。

評価方法・評価基準： 評価は、提出物、レポート等で行う。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					10
授業態度	○		○	○			30
受講者の発表	○	○	○		○		10
演習			○		○		10
その他		○	○		○		40

履修上の注意：課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。
 欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定しレポート(1200字)を提出すること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
言葉指導法 (Teach.Meth.of Children's Sp.Dev.)		今 秀子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：豊かな言葉を育む保育者の役割について説明できる。
- 思考判断：言葉と保育の展開（発達及び幼児理解）について事例を通して指摘できる
- 関心意欲：児童文化財の特徴、役割について理解し意欲的に実践に向けて取り組む。
- 態度：自ら感性を磨き言葉による表現力を身につける。

授業の概要

幼児の言葉で学んだ乳幼児の言葉の発達、保育所保育指針や幼稚園教育要領を踏襲し、幼児の言葉を豊かにする指導の方法について実技を通して学ぶ。乳幼児理解と言葉は不可分の関係で、保育の実践において「生活の中の言葉と幼児理解」「具体的な場面や状況に応じた援助の在り方」「幼児の言葉を豊かにする児童文化財の活用」など、実技や事例を通して日本語の美しさや言葉の正しさ、豊かさを学んでいく。
 予習：保育所保育指針・幼稚園教育要領における「言葉」の領域について予備知識を持ち講義に臨む。
 復習：子どもを取り巻く児童文化財は子どもの発達に必要な不可欠でその大切さを知り、実践する。

授業計画

第1回：	オリエンテーション・授業内容・方法・実技・課題等の共通理解
第2回：	保育の基本と「領域 言葉」・体験の充実と言葉
第3回：	幼児理解と言葉・生活の中の言葉 言葉を育てる保育者の関わり
第4回：	言葉を豊かにする児童文化財
第5回：	保育者と絵本（科学絵本、生活絵本、物語絵本 その他）
第6回：	保育者の言葉と表現 ①本のメッセージを読み取る（感想文の提出）
第7回：	②紙芝居の成り立ちと基礎的理解
第8回：	③紙芝居の取り扱いと演じ方

発達の中の言葉	
第9回：	①聞くこと、話すこと、思いの伝えあい
第10回：	②思考すること、想像すること ことば遊び
第11回：	仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」理解 ①素材検討、シナリオ作り
第12回：	②劇づくり（グループ）
第13回：	③グループ発表（劇遊び）と検証
第14回：	①音声言語から文字言語へ
第15回：	②保育と文字の関わり ③領域「言葉」のまとめ
第16回：	期末試験

テキスト： 岡田明『『新訂』子どもと言葉』萌文書林

参考書： 厚生省「保育所保育指針」文部科学省「幼稚園教育要領」その他講義で提示

評価方法・評価基準：課題提出「絵本カードと感想文」「グループ企画発表」期末試験及び総合評価

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (期末試験)	○	○		○			50
課題、実技、演習への取り組み	○		○	○			30
授業態度 授業への参加度	○		○	○			10
受講者の発表			○	○	○		5
演習	○		○		○		5
その他							

履修上の注意：保育者としての自覚に基づき自身が豊かな言葉で話せる様にする
 絵本カード提出必須（7月6日まで）、ごっこ遊び：グループ発表（紙芝居）

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
音楽表現指導法 (Teach.Meth.of Mu.Exp.of Children)		大山 伸子

授業の到達目標及びテーマ：音楽表現の基礎技術を修得し、保育現場で活用しうる音楽の教材研究等に意欲を持って取り組めるようにする。

授業の概要：身体を通して音楽を感じ、考え、表現するダルクローズの「リトミック教育法」に基づいて、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、保育現場で活用しうる、手遊び、歌遊び、身体創作表現など、具体的な教材活動を通して、音楽を発展的、総合的に創意工夫できるようにする。

予習：教材の課題を練習し発表する

復習：リズム・フレーズなど、リズムのメトリカルな課題をおさらいし体得する。

授 業 計 画

第1回：	リトミック音楽教育について
第2回：	DVD 学習(リトミック発祥地におけるリトミック音楽教育の現状)
第3回：	拍の理解。基礎リズムのリズム打ちとステップ(歩く、走る、スキップ)
第4回：	リズムパターンとフレージング
第5回：	リズムパターンとポリリズム
第6回：	幼児曲を題材にした創作表現
第7回：	イメージによる身体表現
第8回：	拍子感とアナクルーシスについて

第9回：	3拍子(簡易楽器や教具を使って)
第10回：	教材研究① (手遊び歌、童謡等を題材にして)
第11回：	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における『表現』領域について
第12回：	教材研究② (テーマに即した題材に基づいて)
第13回：	ボディパーカッション
第14回：	教材研究③ (合奏表現の発表)
第15回：	教材研究④ (幼児曲を題材にした創作表現)
第16回：	まとめ

※手遊び、歌遊び、身体創作等は、その都度、課題に即した教材内容で行う。

テキスト：『新・幼児の音楽教育』朝日出版社
コピー資料、その他。

参 考 書：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」

評価方法・評価基準：実技テスト及び授業における課題評価

- ① グループ課題による評価—幼児曲を創作表現及び、基礎リズムや拍子感を生かした教材研究
- ② 個人課題による評価—リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、ポリリズムの実技及びレポート課題
- ③ 授業への参加度—授業においてグループ発表による評価が数回ある
- ④ 授業態度—①~④を総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)				○	○		25
小テスト・ 授業内レポート	○		○		○		20
授業態度				○			10
受講者の発表			○		○		25
演 習					○		20

履修上の注意：軽装、運動シューズで受講すること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
造形指導法 (Teach.Me.of Fo. Art for Children)		佐久本邦華・苅谷洋介

授業の到達目標及びテーマ

本講義では、子どもの発達と造形表現に関する知識をふまえ、子どもの遊びと想像力を豊かに展開し、それを表現へと繋げていくために必要な技術を習得することを目標とする。幼児の造形表現に関して、心理学や教育学など様々な分野の研究者の思想や、そこで提唱されてきた実践・方法論などについて学びながら、それらを体験・経験することで子どもと表現について考え、保育や幼児教育における造形の指導とは何かを実感してもらう事をテーマとする。

授業の概要

幼児造形教育の変遷を辿りながら、主にローエンフェルドが述べている子どもの描画の発達段階について学び、その後オートマチズムやプリンティングの技法を用いた演習を行う。また、触覚、聴覚、嗅覚を刺激しそれを視覚へと転換するような制作も行う。最終的にそれらの体験をもとに各自でテーマを決め、平面作品の制作を行う。

予習：レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。

復習：授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。

授業計画

第1回：	オリエンテーション-造形指導法の目的と内容について-
第2回：	子どもの描画の発達段階について-V. ローエンフェルドの発達段階を中心として-
第3回：	触覚的アプローチ -フィンガーペインティングとボディインティングの意義-
第4回：	環境を写し取る-フロッターージュとその具体的展開-
第5回：	偶然性の色彩遊び(1) -デカルコマニーとその心理的側面-
第6回：	偶然性の色彩遊び(2) -ドリッピングとその具体的展開-
第7回：	偶然性の色彩遊び(3) -パチックとその具体的展開-

第8回：	偶然性の色彩遊び(4) -ぬり広げとその具体的展開
第9回：	偶然性の色彩遊び(5) -モノプリントとその具体的展開
第10回：	音と色彩 -いろいろな音を色彩で表現する
第11回：	匂いと色彩 -匂いを色彩で表現する
第12回：	複数の技法を使用した平面表現(1) -テーマを設定した平面作品の制作-
第13回：	複数の技法を使用した平面表現(2) -テーマを設定した平面作品の制作-
第14回：	幼児の造形教育思想の歴史-ルソーからチゼック、デュイの思想とDBAE(Discipline Based Art Education)、レジオアプローチの動向について-
第15回：	幼児の表現教育の問題-法則化運動・色彩描画診断法の問題を中心として-

テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布

参考書：福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアート—プロジェクトアプローチの実践から—』(小学館, 2015)、榎英子『保育をひらく造形表現』(萌文書林, 2011)、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』(ミネルヴァ書房, 2015)、無藤隆監修・浜口順子編者代表『領域表現—事例で学ぶ保育内容—』(萌文書林, 2010)

評価方法・評価基準：演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○						10
演習・小作品		○					40
最終作品					○		20
鑑賞・発表			○				20
授業態度				○			10
合計							100

履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		赤嶺 優子

授業の到達目標及びテーマ

視聴覚教材の意義を理解し、保育内容を意識した、視聴覚教材を製作する。また、教材の演出（演じ方・他）方法を研究し教育・保育実践の場で自信を持って演出（演じ方・他）できるようにする。

授業の概要

保育における「視聴覚教材」の意義を理解する。幼児の豊かな感性を育くむための教材を研究し保育内容を意識した視聴覚教材を製作する。また作品発表を経験することで演出方法の素養を身につける。

予習：製作内容を事前に準備をしておくこと。

復習：必要に応じて作品を修正し視聴覚教材の質を高める。また、演出方法を工夫する。

授 業 計 画

第1回： 視聴覚教材の意義について	第9回： 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター ・他
第2回： にこにこシアター（誕生会）	第10回： 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター ・他
第3回： にこにこシアター（誕生会）	第11回： 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター ・他
第4回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第12回： * 作品発表
第5回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第13回： ディスプレイ教材・他
第6回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第14回： * 作品発表
第7回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第15回： まとめと視聴覚教材（作品）提出
第8回： * 作品発表	

テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：視聴覚教材(ディスプレイを含む4点)、作品発表、課題(教材観・演出方法の研究)等で総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 視聴覚教材			○	○	○		60
視聴覚教材づくり	○	○	○				20
受講者の作品発表		○	○		○		10
課題	○	○					10
演 習							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		真栄城 かの子

授業の到達目標及びテーマ

視聴覚教材について理解を深め、自ら表現できるようにする。教育・保育現場で自信を持って子どもに接し場面に応じた教材の活用ができるようにする。

授業の概要

保育における「視聴覚教材」の意義について理解する。
 幼児の豊かな感性を育くむための教材をいくつか取りあげ、製作をとおして保育技術を習得する。
 また実践発表を経験することで表現者としての素養を身につける。
 予習：配布資料を読み、内容を理解しておく。多くの絵本を読み、発表や制作の内容を考え準備する
 復習：授業の内容を振り返り、理解を深める。制作については期日内に作品を完成させ、実演の練習を行う

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション 児童文化とは何か	第9回： パネルシアターとエプロンシアター について（特性と演じ方実演）
第2回： ペープサートについて 年少向け作品①	第10回： パネルシアターとエプロンシアター について
第3回： ペープサート制作 年少向け作品①	第11回： 作品実践発表（パネルシアター）
第4回： 作品実践発表（ペープサート）	第12回： エプロンシアター制作 年長向け作品③
第5回： 絵本について （特性と読み聞かせ実演）	第13回： エプロンシアター制作 年長向け作品③
第6回： 絵芝居について（特性と演じ方実演）	第14回： 作品実践発表（エプロンシアター）
第7回： 軍手人形をつくろう 年少向け作品②	第15回： 身近な素材を使って楽しい劇遊び まとめと作品提出
第8回： 作品実践発表（軍手人形）	

テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書：「ことばと表現力を育む児童文化」（勝泰介ほか編、萌文書材）

「演習児童文化」（小川清美編、萌文書材）

評価方法・評価基準：

授業への参加度・受講態度・提出物・製作作品(ディスプレイを含む4点)課題発表等を総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		30
作品提出					○		40

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育メディア研究 (Pre-Sch. Educ. Media Studies)		米盛 徳市

授業の到達目標及びテーマ

- ・メディア活用を通じて、保育の質を向上させようと思う研究心・使命感・倫理観を高める。
- ・メディアに対する苦手意識を克服し、メディア活用に意欲的な人間関係を育む。
- ・保育現場におけるメディア活用の実際を知り適切な文書作成やプレゼンテーションが出来るようになる。

授業の概要

保育園や幼稚園では、①ペイント（お絵かきソフト）を使って、子どもたちの視覚に訴える様々な表示を行ったり、②パワーポイント（プレゼンテーションソフト）を使って、卒園式で1年間の子どもの園生活の様子や研究発表等のプレゼンテーションを行ったりしている。③絵本作成を行う。これからの保育士や幼稚園教諭には、ワープロやお絵かきソフト及びプレゼンテーションソフト等を活用できる能力が求められている。そこで、本講義においては、保育園や幼稚園で求められている上述の内容について、すべての学生ができるようにすることを目指している。成果の一部を学内の学生及び教員に公開する。

予習：本講義の専用サイトにアクセスし過去の作品集を閲覧しながら自らのオリジナル作品を考案する。
 復習：随時更新される他の作品を閲覧し、新しいアイデアを取り入れ作品の変更を行う。

授業計画

第1回：	保育園・幼稚園におけるマルチメディア活用の実態と今後の方向性
第2回：	ワード（ワープロソフト）における画像のコピーと貼付・テキストボックスの活用
第3回：	ワードを活用した「学級便り」の作成
第4回：	パワーポイントの基本的な操作方法
第5回：	パワーポイントによる自己紹介プレゼンテーションの作成
第6回：	アニメーション機能を取り入れた自己紹介プレゼンテーションの作成
第7回：	アニメーション機能を取り入れた「母への感謝の手紙」プレゼンテーションの作成

第8回：	ペイント（お絵描きソフト）で笑っている自画像を描き、パワーポイントに貼り付ける操作
第9回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅠ
第10回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅡ
第11回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅢ
第12回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅰ
第13回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅱ
第14回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅲ
第15回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅳ

テキスト：本講義用のホームページに随時必要な情報を提示する。予習や復習に役立てる。

評価方法・評価基準：

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度					○			15%
受講者の発表								
演習・課題		○	○	○	○	○		85%
その他								

※正当な理由なくして4回以上欠席した場合は作品の提出の如何に関わらず単位は認められない。

履修上の注意：保育士や幼稚園教諭を目指している学生は、できるだけ履修することが望ましい。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育カウンセリング (Counseling for Child Care)		大城りえ・玉城弘美

授業の到達目標及びテーマ

保育カウンセリング（保育相談支援）の意義と方法論について理解する。さらに保育所等における保護者支援の実際について理解する。

授業の概要

保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、保護者支援の基本について学ぶ。さらに、事例検討（グループ討議）を通して保育所等での子ども・保護者支援の実際について学ぶ。

予習：事例を事前に読むこと

復習：事例検討を振り返り、応用できるように努めること

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション、保育カウンセリング（保育相談支援）の意義	第9回： 保育所等での具体的な事例②
第2回： 保育カウンセリング（保育相談支援）の原則	第10回： 保育所等での具体的な事例③
第3回： 保育カウンセリング（保育相談支援）の基本①	第11回： 保育所等での具体的な事例④
第4回： 保育カウンセリング（保育相談支援）の基本②	第12回： 保育所等での具体的な事例⑤
第5回： 保護者支援の内容	第13回： 保育所等での具体的な事例⑥
第6回： 保護者支援の方法と技術	第14回： 関係機関等との連携と協力
第7回： 支援の記録について	第15回： 支援になる連絡帳の書き方
第8回： 保育所等での具体的な事例①	第16回： 期末試験

テキスト： 小林育子 『演習 保育相談支援』 萌文書林

参 考 書：

評価方法・評価基準： 期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、授業態度、演習（グループ討議）発表

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				40
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				15
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○	○	○				10
演 習	○	○	○				25
その他							

履修上の注意： グループ討議を積極的に行うこと。

授業科目名	5単位	担当教員
教育実習（幼稚園） （Pract. Teaching in Kindergarten）		喜舎場 勤子

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：幼稚園教育の特徴を理解する。保育内容・方法、保育者の役割、子ども理解等を学ぶ。
 思考判断：使命感や倫理観を育み、他者と協力しながら主体的に保育に携わる。
 関心意欲：子どもの言動からその子の内面理解に努めると共に、他者や遊具との関係にも関心を持つ。
 教師の子どもへのかかわり方を通して、その意図を学ぶ。
 態度：自己管理に努める。日常の業務を通して指導力や環境構成の力を身につける。

授業の概要

本学で学んだ専門的知識や技術を教育実習(120 時間)の実践を通し教師となる自覚を養う。
 予習：与えられた課題を準備し出席する。
 復習：学習した知識・技術の要点を整理し、実習の場で活用できるようにする。

授 業 計 画

- ・実習園でのオリエンテーション
- ・実習園の方針についての一般的理解
- ・幼児理解、人的・物的環境等の理解
- ・保育内容の一般的理解
- ・幼児とのかかわり
- ・保育内容と保育形態の理解
- ・教育実習の段階
 - 1)見学・観察実習
 - 2)参加・部分実習
 - 3)部分・責任実習
- ・実習園の諸行事への参加
- ・実習日誌はその日に記入し翌朝提出
- ・指導案は、1週間前に提出

- 1.実習指導に出席し、教育実習の一環として受講（実習訪問報告書・調査書・誓約書・他・提出物含む）
- 2.中間協議は、実習期間中の土曜日に本学にて実施。実習の一環として参加（出席カード提出）
- 3.実習終了後の反省会に参加（出席カード提出）
- 4.実習日誌は実習終了後、本人が園から受け取り本学へ提出
- 5.実習終了後は、実習レポートを本学に提出
- 6.幼稚園実習終了後の評価表（幼稚園教育実習）自己評価の提出

テキスト： 幼稚園教育要領解説書、その他必要な資料は担当者が準備する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：

学内の実習指導状況（事前・事後指導および中間協議・反省会等を含む）（40%）、実習園からの評価資料（60%）により評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
その他（提出物含む）	○	○	○	○	○	○	100

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育・教職実践演習（幼稚園）		赤嶺優子・照屋建太・川西康裕・大城りえ・佐久本邦華・大山伸子・喜舎場勤子・山城 真紀子

授業の到達目標及びテーマ

自己の課題を認識し、保育者として求められる最小限必要な資質能力を形成する。

授業の概要

これまでの講義・演習、さらに実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質形成を目的とする。

保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習を通して、具体的に学んでいく。

予習：自己の知識・技能を振り返り、自己課題を確認すること

復習：授業内容を再確認し、理解に努めること

授業計画

	内容	担当
第1回：	イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論	全教員
第2回：	飼育栽培活動のポイントとその展開	照屋建太
第3回：	幼稚園現場における保育者の資質と実践力および造形表現教育	佐久本邦華
第4回：	幼児の豊かな表現力を育てる音楽指導法（演習・グループ討議）	大山伸子
第5回：	健やかな成長をめぐる課題と指導法（グループ討議）	山城真紀子
第6回：	特別講義：保育者の専門性とは	外部講師
第7回：	エピソード記録とは	全教員
第8回：	事例研究会①	全教員
第9回：	事例研究会②	全教員
第10回：	事例研究会③	全教員
第11回：	幼児理解や学級経営についての講義・グループ討論	赤嶺優子
第12回：	幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレーイング）	大城りえ
第13回：	保育者の資質向上ならびに組織開発のためのソーシャルグループワーク演習	川西康裕
第14回：	保育者の使命感・責任感・教育的愛情	喜舎場勤子
第15回：	資質能力の確認、まとめ	全教員

テキスト： 授業内容に応じて資料を配布

参考書： 適宜に提供

評価方法・評価基準： 小テスト、事例研究の資料作成・発表・レポート、自己評価表

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○			80 (10×8)
自己評価表	○		○	○			10
事例研究資料作成	○	○	○				10
事例研究発表および事後 の学び	○	○	○				10
保育教職実践演習の まとめ	○	○	○				10
合計							120 点満点

履修上の注意：